

図書館

広島大学図書館は5館で構成され、総蔵書数は約347万冊と、全国有数の規模を誇る図書館です。パソコンからの指示によって本を自動的に取り出せる「自動書庫」も備えています。また、江戸時代から現在までの教科書のコレクションをはじめ、数多くの貴重な資料を所蔵しています。

● データベース・視聴覚資料

図書館資料には、書籍の他に、新聞記事や雑誌記事検索などの各種データベースがあります。また、映画や音楽、語学学習用ソフトなどの視聴覚資料も利用できます。

● レファレンス・サービス(参考調査)

学習や研究に必要な資料・情報などの入手を、図書館のスタッフがサポートします。図書館の利用について困ったときには、各図書館のカウンターに、ご相談ください。

● 各種講習会の開催

新入生対象の「図書館ガイダンス」など、図書館の利用についての各種講習会を開催しています。また、希望に応じて、グループ単位での講習会開催も受け付けています。

● 施設概要 (令和元年現在)

図書館名・所在地	面積	閲覧席数	蔵書冊数	主な蔵書
中央図書館	16,641㎡	992席	228万冊	人文・社会科学、教育学、自然科学系の図書・雑誌
東図書館 ^{※1}	3,442㎡	277席	31万冊	自然科学系(主に工学、生物学)の図書・雑誌
西図書館	6,335㎡	412席	62万冊	全科の教養、学習参考図書・雑誌
霞図書館 ^{※2}	2,382㎡	348席	20万冊	医学・歯学・薬学・保健学の図書・雑誌
東千田図書館	685㎡	81席	6万冊	法学、経済学の図書・雑誌

※1 改修工事のため2019年8月上旬から2020年5月上旬まで全面休館予定です。

※2 改修工事のため2019年8月上旬から2020年5月上旬まで部分開館(学内者限定)予定です。

詳しくは図書館ウェブサイトのお知らせをご確認ください。

● 学習支援スペース BIBLA(ビブラ)

Group Space

グループ学習のためのスペースです。可動テーブルと椅子、ホワイトボードを自由にレイアウトし、議論やプレゼンテーションの場として活用できます。



Study Space

「図書もインターネットも活用して学習したい」、そんな要望に応える書斎空間です。パソコンを使い、図書資料を広げても、ゆったり使えるデスクを設置しています。



BIBLA Kasumi (霞図書館)

グループ学習のためのスペースです。霞キャンパスの学生は24時間利用することができます。



● ライティングセンター

授業の課題やレポートなど、文章の書き方で困ったときはライティングセンターに相談することができます。文章指導の専門的な研修を受けた大学院生のチューターが、対話やブレインストーミングを通して、よりわかりやすい文章を作成できるようにサポートします。英語論文の相談も受け付けています。



● 特別コレクション

中央図書館には、特別コレクションとして個人文庫、特別集書、大型コレクション、寄託資料等の貴重な文献を収蔵しています。これらの一部はデジタルコレクションとして電子化して公開しています。

教科書コレクション

江戸時代の往来物から現代にかけてのわが国の教科書を集めています。分野が多岐にわたり、初等教育から高等教育まで網羅的に収集された、全国でも貴重なコレクションです。



小学国語読本 尋常科用 1933(昭和8年)

庭訓往来 1827(文政10年)

森戸文庫

森戸辰男広島大学初代学長の旧蔵資料です。社会主義・社会問題関係、戦後教育・政治関係の書籍類が中心です。



マルクス「資本論」第1巻初版本

フランス語版「資本論」初版本



福沢諭吉「学問のすすめ」 1872(明治5年)

詳しい情報は [こちらから!](http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/)

<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/> (日本語)

<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/?lang=english> (English)

総合博物館 (東広島キャンパス)

広島大学総合博物館は、本館を中心にキャンパス内に点在するサテライト館とそれらをつなぐ「発見の小径(東広島キャンパスの広大な敷地を利用した自然散策道)」で構成されたキャンパスまるごと博物館です。常設展示の他に、企画展などのイベントも開催しています。

●本館

広島大学の紹介や、貴重な化石・剥製、地域の環境や文化に関わる資料を展示する、総合博物館の中心施設で、インフォメーションセンターの役割も担っています。



「宇宙・地球」ゾーン



「里海」ゾーン



「里山」ゾーン



東広島キャンパスや周辺地域に生息する鳥類・哺乳類の剥製・骨格標本も展示しています。

●サテライト館

各学部やセンターの専門的な研究内容を展示・紹介しています。埋蔵文化財調査部門・生物圏科学研究科・理学研究科・文学研究科・中央図書館の5カ所に設置しています。



埋蔵文化財調査部門サテライト館

●発見の小径

四季折々の自然の移り変わりを楽しむとともに、東広島キャンパス内に生息する、絶滅危惧種を含む多様な生物や、先史時代以降の多数の遺跡を見ることができます。



詳しい情報はこちらから!

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/museum/>

病院 (霞キャンパス)

広島大学病院は、「全人的医療の実践」、「優れた医療人の育成」、「新しい医療の探求」を理念に掲げ、中国・四国地域の中核医療機関として、急速な進歩を続ける医学に対応する先進的な医療を提供しています。

●地元プロスポーツチームとの連携

広島東洋カープ、サンフレッチェ広島など多くのプロスポーツチームの拠点となっている地域性を生かし、これらのチームと積極的に連携しています。広島東洋カープとは、選手、スタッフおよび審判の救護活動に関して合意書を締結し、マツダスタジアムでの試合開催時には、本院の医師1名が待機し、傷病のサポートに当たるほか、新入団選手の体力測定を本院のスポーツ医学センターで実施しています。また、サンフレッチェ広島とも医療支援協定を締結するほか、世界的なてんかん疾患啓発活動である「パープルデー」にちなみ、紫をチームカラーとしているサンフレッチェ広島とてんかん診療拠点機関である本院(てんかんセンター)のコラボレーションによるてんかん疾患啓発活動を行っています。



●災害への対応

高度被ばく医療支援センターおよび原子力災害医療・総合支援センターとして、東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故が発生した直後から、継続して緊急被ばく医療チームや放射線の専門家ら延べ1300人余りを派遣するなど、医療支援を中心とした被災地の復興支援活動に取り組んできました。平成28年4月には、「福島医療支援センター」を設置。福島県立医科大学からの協力依頼に応じ、これまでに9名の医師が向出し、福島県の医療体制の充実に貢献しています。

また、広島市土砂災害(平成26年)、熊本地震(平成28年)、西日本豪雨災害(平成30年)などの災害発生時には、DMAT(災害派遣医療チーム)が出勤し被災地で積極的な医療支援活動を行っています。

西日本豪雨災害では、DMATのほか、JMAT(日本医師会災害医療チーム、感染症対策チーム)、DPAT(災害派遣精神医療チーム)、JRAT(大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会)、災害支援ナースおよび口腔ケアチームが出勤し、医師、看護師を中心に約260人の職員が、被災地で医療支援活動に取り組みました。



西日本豪雨災害でのDMAT出勤

詳しい情報はこちらから!

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/>